

西野 由希子 さん(48)

若者の力で伝統芸能再開

学生たちを率いて、常陸大宮市の地域おこしに関わり始めてから九年目。十月には五年ぶりに組み立てられた農村歌舞伎用の「西塩子の回り舞台」の運営をサポートし、大盛況に導いた。

「中国文学の先生なのに、なぜ地域おこしをと思議がられますが、文学は社会や生活と深く関わっているから中心的役割を務めた。」

「中国文学の先生なのに、なぜ地域おこしをと思議がられますが、文学は社会や生活と深く関わっているから中心的役割を務めた。」

市の総合計画策定や市民憲章づくりを支援し、まちづくりシンポジウムや市民大学講座を開く。学生たちも地域の呼び掛けに応じてイベントや祭りに参加するようになり、関係を深めていった。

今年、特に力を入れたのが江戸時代から受け継がれてきた西塩子の回り舞台の復活。五年前から住民の高

「中国文学の先生なのに、なぜ地域おこしをと思議がられますが、文学は社会や生活と深く関わっているから中心的役割を務めた。」

「中国文学の先生なのに、なぜ地域おこしをと思議がられますが、文学は社会や生活と深く関わっているから中心的役割を務めた。」

「県北地域の活性化のためにどんなものを生み出しているのか。私自身も楽しみ」

「常陸大宮市は来年が十周年。ここ五年くらいで、市民も学生たちもまちづくりで協力し合える楽しさを感じられるようになってきた。これからさらに輪を広げていければ」と意気込む。常陸大宮市での経験を生かし、次は北茨城市の過疎集落「楊枝方地区」の地域おこしに取り組んでいる。県企画課の協力を受ける講義「地域課題特論」で十月から地域活性化について勉強し、現地に赴いてフィールドワークを重ねる。現在二年生の三十四人が、卒業まで継続して取り組んでいくという。

(成田陽子)



市民も学生もまちづくりで協力する楽しさを感じている

にしよ・ゆきこ 1965年9月、大分市生まれ。お茶の水女子大学助手を経て、96年に茨城大に着任。2011年から人文学部教授。中国文学（特に近現代文学、香港文学）と中国文化を研究し、中国語も教える。

「常陸大宮市は来年が十周年。ここ五年くらいで、市民も学生たちもまちづくりで協力し合える楽しさを感じられるようになってきた。これからさらに輪を広